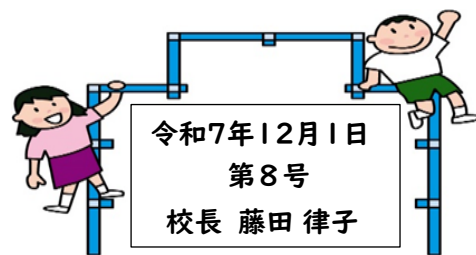
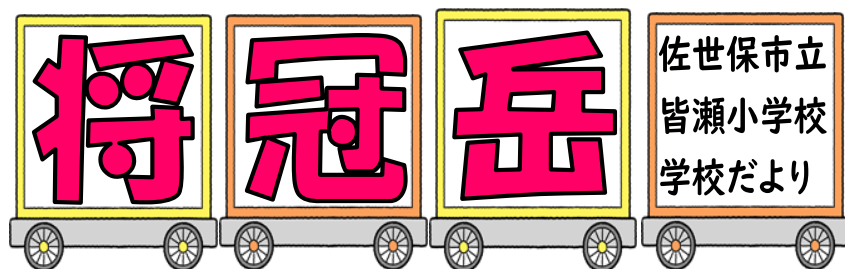


からだを鍛え知を磨き いつも誰にでも思いやりを持ち ぜんりょくで努力し伸びていく子供の育成



人権…「友達も自分の心も大切に」

みんなが幸せになる学校(社会)をみんなで創る

世界人権宣言は、1948年12月10日、創設されて間もない国際連合で採択されました。その頃、世界は、第2次世界大戦後の荒廃した瓦礫の中から立ち上がろうとしていました。宣言の前文に、「人権の無視及び軽侮が人類の良心を踏みにじった野蛮行為(戦争)をもたらした」とあるように、エレノア・ルーズベルトを委員長とする国連人権委員会は、戦争への深い反省をもとに、「恐怖及び欠乏のない世界」をめざしてこの人権宣言を創り上げました。それなのに、今なお、ウクライナ、ガザ…、世界で「野蛮行為」がなくなるのはなぜでしょうか。平和と人権はつながっています。

また、今、SDGs:持続可能な社会の実現が叫ばれていますが、「誰一人取り残さない」という言葉からも、SDGsが人権と深い関りがあることは明らかです。私たち大人には、子どもたちが生きていく未来社会を持続可能なものにする責任があります。今こそ、本気になって、人権の課題に向き合わなければなりません。

皆瀬小学校では、各学年の発達段階に応じた人権学習、いじめアンケートと個人面談、児童会による「笑顔の花を満開に」プロジェクト(「友達のおかげで笑顔になったこと」や「友達へのありがとう」をお花の用紙に書いて幹のついた模造紙に貼り、中央階段に掲示する。)、全校合唱「ともだちはいいもんだ」などに加え、下記の2つの取組を行います。

12月10日(水)の人権集会で私は、「多様性」について話そうと思っています。違いを認め合うこと、自分と同じように相手も大切にすること、困っている人の問題をみんなの問題として考え、支え合う学校(社会)を創ること。子どもたちの心の人権の理想がイメージできるように、心を尽くして伝えたいと思います。



いのちかがやく講演会

12月16日(火) 10:30~12:00

4・5・6年生児童と保護者対象

『思春期バンザイ! ~ 皆瀬っ子最高!』

子どもたちに伝えたいこと ~』

講師:熊丸 みつ子 さん

子どもも保護者も丸ごと認め、励ましてくださる温かい先生です。忙しい毎日、ちょっと立ち止まって、子育てについて考えて、ほっこりしませんか。

アサーティブコミュニケーションを学ぼう!

12月9日(火)に、佐世保市人権教育研究会から2名の講師の先生をお招きし、2年生と5年生を対象にしたワークショップを開催します。

「アサーティブコミュニケーション」とは、相手を尊重しながら自分の気持ちをちゃんと伝えるスキルです。自分の本当の気持ちを表出することが苦手な子が増えているように感じています。相手を不愉快にさせず、自分も我慢してストレスをためるのではなく、上手に気持ちを伝え、理解し合うコミュニケーションの方法を学びます。

12月の予定

1日(月)～5日(金)特別日課

2日(火)地震体験6年

4日(木)～10日(水)人権週間

7日(日)キッズクラブ『逃走中』

9日(火)障がい者の日

人権教育ワークショップ2年・5年

国際理解指導員来校日

10日(水)世界人権デー、人権集会

12日(金)SC本山先生来校日

16日(火)いのちかがやく講演会

国際理解指導員来校日

19日(金)食育・徳育の日

21日(日)キッズクラブ『餅つき』

家庭の日

23日(火)国際理解指導員来校日、大掃除

24日(水)2学期終業式

29日(月)～1月5日(月)

年末・年始の休日、学校閉庁日

1月8日(木)3学期始業式



放課後子ども教室『皆瀬小キッズクラブ』の取組

放課後子ども教室というのは、子どもたちの放課後の居場所をつくるために、保護者や地域の人たちが協力して様々な体験の場を用意する取組です。12月には、『逃走中』と『餅つき』という2つの活動が計画されています。『皆瀬小キッズクラブ』代表の金崎 明日香さんにお話を聞きました。

放課後子ども教室に関わって5年目です。『逃走中』は今年で4回目。コロナ禍に卒業する6年生に楽しい思い出をと計画したのが始まりです。毎回、楽しんでもらうために新しいミッションを加えています。『餅つき』は初めての試みで、どうなることかと思っていたら、たくさんの地域の皆さんが「協力するよ。」とってくださいました。中里中生徒会の協力もあり、参加者はなんと130名。「楽しければ人は集まる!」と信じて頑張っています。

ただ、これまでキッズクラブを手伝ってくれた仲間が辞めることになりました。次年度以降もキッズクラブを継続するために、協力してくれる人を探しています。子どもたちのために一緒に活動しませんか。



人と人がつながる楽しさを教えたい

学級担任の頃、私は全員遊びをしていました。全員遊びとは、遊び係を中心に何をして遊ぶか話し合って決め、昼休みに全員で遊ぶことです。楽しく盛り上がりたければいいのですが、揉めることも多く、何とか子どもたちに「楽しかった!」と言わせようと、私は必死の笑顔で盛り上げたものです。

コロナ禍以降、全員遊びをしない学級が増えてきました。「昼休みだから自由に過ごしたい。」「遊びを強制されたくない。」もちろん、そういう気持ちを出せることも大事。でも、まずは一緒に遊んでみたら楽しいかもしれないのに。何度も揉めてけんかして…、そうやって絆って深まっていくのに。

こんな時代だからこそ、子どもたちに、人と人がつながる楽しさを教えたい。人とつながって生きる幸せに気づかせたい。金崎さんと話していて、そう思いました。多様性の尊重とは、「みんな違うからバラバラでいい。」ということではありません。「**違いを乗り越えてわかり合い、共に生きる。**」ことです。大人がそんな姿を子どもたちに見せられたらいいですね。

